



TITLE:

國勢調査の性質に就て

AUTHOR(S):

岡崎, 文規

CITATION:

岡崎, 文規. 國勢調査の性質に就て. 經濟論叢 1932, 34(4): 722-736

ISSUE DATE:

1932-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130166>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第

卷四十三第

行發日一月四年七和昭

論叢

動的資本と課税

法學博士 神戸 正雄

社會理念とイデオロギー及びミースト

文學博士 米田 庄太郎

マルクスに於ける精神科學的方法

經濟學博士 石川 興二

時論

上海事變を通じて見たる日支關係

經濟學博士 作田 莊一

研究

大量觀察に於ける理論と技術

經濟學士 蜷川 虎三

國勢調査の性質に就て

經濟學士 岡崎 文規

燒津鯉漁業に於ける船仲組織

經濟學士 岡本 清造

アルフレッド・ウニバーの工業集積理論について

經濟學士 菊田 太郎

說苑

經濟學と經營學との境界線に就て

經濟學士 谷口 吉彦

東海道濱松宿に於ける人馬遣ひ方について

經濟學士 大山 敷太郎

デイーチエルの公債論

經濟學士 鹽見 眞澄

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁轉載)

國勢調査の性質に就て

岡崎文規

一

統計學史上から見て、獨逸に於ては、國家顯著事項の記述的表章を其の身上とせる所謂大學派統計學 (Universitätsstatistik) に對し、「數字の奴隸」 (Zahlenknecht) とまで惡罵されつゝ、數字的表章を重んじたる所謂尙表派統計學 (Tabellenstatistik) や、英國に於ける所謂政治算術派 (Political Arithmetic) の發達するに至つたのは、漸く十六世紀の事に屬するが、行政的目的に基く統計調査は、近代の科學的調査方法から見れば、言ふ迄もなく、極めて幼稚なものであつたに違ひないけれども、西曆紀元を遙かに遡つて、既に數千年の昔にも實施せられた史實が存してゐる。人類の社會的集團の原始的形態は、大家族制による分散的組織體であつて、其の構成員は三十人乃至精々二百人に過ぎなかつた¹⁾。原始社會に在つては、人類は全く自然の強制の下に立つてゐて、自然が任意に提供する生活資料のみを利用し得る受働的地位に置かれてゐたから、常に水草を逐うて彷徨する必要に迫られてゐた爲めに、それよりも大なる社會的集團の構成は不可能であつたのである。

1) Knabenhans, A., Die politische Organisation bei den australischen Eingeborenen, 1919, S. 37 ff.

そしてかゝる社會的集團は自律的政治團體としては極めて小さなものに過ぎなかつたから、特に統計調査の要求も發生し得ない状態に在つたのであるが、生活資料に對する人口數の過剩は必然に生産經濟の階梯を招來し、そして定住的農業經濟制度の成立は、之と同時に分散的原始社會體の統合による一つの國家的社會の發生を伴ひ、こゝに於て、この國家は、國家經營の基準を確立するに當つて、行政、人口、經濟等の構成を統計的に明らかにする事が必要となり、統計と國家とは極めて密接なる關係に立つ事となつた。

この行政統計で最も古き世界的記録は、一般に信ぜられてゐる處に従へば、農業狀態並に國民の擔稅能力を判斷する爲めに、紀元前二千三百年（或は二千二百三十八年）に支那に於て實施せられた人口調査である。⁵⁾之に次で我國に於ても、それは全國的のものではなかつたが、紀元前六六〇年及び八六六年に、人口統計調査が實施せられ、殊に後者に在つては人口の年齢、體性、職業等も調査せられたのであつた。⁶⁾またペルシアに於ては、紀元前五〇〇年頃に、戰時租稅の課賦上、人口調査を實施し、舊約聖書には、モーゼがシナイ山に於て、彼の軍隊を調査せる記録がある。尙ほ租稅表並に財産臺帳を製作する目的から、ギリシアに於て國勢調査を實施したのは紀元前五〇〇年頃の事に屬してゐる。殊に古代ローマに於ける統計調査は注目に値するものであつて、特に Servius Tullius は靜態人口を回歸的に實査した。このセンサスは徵兵と徵稅とを其の目的とし、其の調査技術は非常に優れたものであつて、各人の現住地、出生地を調査した以外に、更に奴隸

- 2) Schurz, H., Völkerkunde, 1901, S. 63.
- 3) Mombert, P., Bevölkerungslehre, 1929, S. 12.
- 4) Tyszk, C., Statistik, Teil I. 1924, S. 83.
- 5) Engel, E., Die Volkszählungen, ihre Stellung zur Wissenschaft und ihre Aufgabe in der Geschichte: Zeitschr. d. kgl. preuss. stat. Bur. Jahrg. 12, 1862, S. 27.

數(從來の統計調査では奴隸は問題にされなかつたが)をも明らかにし、Vespasianの紀元七十二年まで、五年毎に調査を繰り返したと言ふ事である。⁷⁾

然るに中世に於ては、この統計調査は一般に衰退し、諸都市に於ける個別的統計調査の外、之を國家的に實査された事例は極めて稀である。しかし十八世紀に入るに及んで、統計調査は、各國に於て、再び問題とされるに至り、一七一九年には、プロイセンに於て、人口並に職業階級統計が製作され、また一七五三年には、オーストリアに於て Maria Theresia の人口調査が實施せられ、更にアメリカ合衆國は、租税分擔の割當並に徴兵の目的上、一七九〇年に第一回國勢調査を實施したのである。⁹⁾ 十九世紀に入るに及んで、歐洲諸國は何れも國勢調査を實施し、例へば英國は一八〇一年、佛國も一八〇一年、ノールウェーは一八一五年、オーストリアは一八一八年、オランダは一八二九年に、第一回國勢調査を實施してゐる。これ等の統計調査は一國の社會狀況又は人口構成を數字的に表章せるものに拘らず、決して近代的統計調査の要求を充し得るものではなくして、一八四六年、ケトリーの努力により、ベルギーに於て實施せられたる國勢調査を以つて、科學的統計調査の嚆矢であると、一般に信ぜられてゐる。¹⁰⁾ これは何故であらうか。

二

古代に於ける統計調査の結果は十分に信頼し得るものではなく、この點に關して種々なる意見が發表せられてゐるが、¹¹⁾ 統計學的觀念の未だ全く萌芽も見られなかつた古代の數字材料が信頼す

Fircks, F., Bevölkerungslehre und Bevölkerungspolitik. 1898. S. 21.

Schnapper-Arndt. G., Sozialstatistik, 1912. S. 51.

尙ほ支那の國勢調査については光岡安藝著國勢調査論(大正元年刊)第二章國勢調査の歴史の項に詳述されてゐる。

⁶⁾ Tyszká, C., a. a. O., S. 84

尙ほ我國上古の人口については、本庄博士、人口及人口問題(昭和五年刊)

るに足らない事は、寧ろ當然の事であると言はねばならない。科學としての統計論は、其の概念的定義の異同を暫らく不問に附するならば、ケトレー以前にも、既に存立してゐた事は、統計學史の明らかに指示してゐる處であり、殊に人口動態現象に關しては、都市又は寺院の統計資料に基き、早くも一六六一年には Craunt の Natural and political observations upon the bills of mortality 一七四一年には Süssmich の Die göttliche Ordnung の如き貴重なる統計的研究さへ發表されてゐるに拘らず、統計的研究に對しても、また統計論に對しても、同じく貴重なる意義を有つてゐる靜態人口の科學的調査が容易に進歩しなかつた事實は、一見、極めて不思議に感ぜられる。

國家が全國に亙る統計調査を實施するに至る動機は、國家行政の方策を樹立するに當つて、空論的努力より遠ざかり、其の論據を具體的數字材料に求めんとするものに外ならない事は、古代に於ける統計調査の史實について觀ても容易に理解し得る處である。それが只だ單に統計的研究の爲めのみに實査される事は極めて稀であつて、必らず行政的目的を伴つてゐるものであり、寧ろ行政的目的に基き實査されたる統計調査の結果を統計的研究に利用するものであると見る方が適切であらう。しかし其の利用の目的が何であらうとも、それが統計調査である以上、其の結果の信頼性を確保する爲めには、必らず科學的に承認されたる統計調査法に準據しなければならぬ。然らざる限り其の調査結果は統計又は統計數字として受け取る譯に行かないものである。從來、ケトレーが國勢調査に於ける科學的調査法を確立し、次いで國際統計會議が其の採用に盡力

第一章上古中古の人口の項、内田博士、日本經濟史の研究(大正十年刊)上卷人口の増殖の項、横山由清氏、日本田制史(大正十五年刊)戸口の項參照。

7) Tyska, C., a. a. O., S. 84.

8) Beukemann, W., Methode und Umfang der deutschen Volkszählungen; Die Statistik in Deutschland. Bd. I. 1911, S. 198.

尙ほ Maria Theresia の Volkszählungen については Gürther, A., Die

するに至るまで、各國の國勢調査は其の調査方法に深く考慮を拂ふ事なくして、全く便宜主義に據つたものに非ざれば、調査方法は極めて不完全なものであつた。

歐洲の人口靜態統計に於ても、一般に中世までは、竈數又は住居數を實査し、一竈又は一住居に對して推定平均家族人員數を乗する事により、間接に人口數を推計したのである。¹³⁾この方法による時は、人口の構成(年齢、體性、職業)について何等の知識をも明らかにし得ざるのみならず、人口數其者も、推計的である以上、決して正確なものではない。また戸籍帳簿に基く人口調査も、從來幾多の國によつて實施せられ、¹⁴⁾我國は、實に大正九年第一回國勢調査の實施を見るまで、この方法を踏襲し來たつたのである。戸籍事務には、出生、死亡の届洩れによる誤謬が存在するのみならず、入寄留並に出寄留に關する記録は全く信頼するに足らぬものであるから、¹⁵⁾交通の盛なる今日に於ては、この戸籍帳簿に基く人口調査は決して適當なものではない。之に加へて、人口の經濟的構成を明らかにし得ざる點も、この調査方法の救ふべからざる缺點であると見る事が出来るであらう。

何故に、久しく、かゝる不完全なる統計調査が持續され來たつたかについては、理由がなければならぬ。國家の行政は、殆んど凡ての場合に、統計的機能の活動を必要としてゐるであらうが、しかし、この統計的機能の程度及び種類は種々なる形態に於て存在し得るものであつて、¹⁶⁾Mischer は之を(一)離脱せる行政統計(nicht ausgelöste Verwaltungsstatistik)と(二)離脱せる

Volkszählungen Maria Theresias und Joséf II. 1753—1790, 1909 に詳述されてゐる。

9) Mayo-Smith, R., Census: Palgrave's Dictionary, Vol. 1. p. 243.

10) Mayr, G., Stat. u. Gesellschaftslehre. Bd. 2. 2. Aufl. 1926, S. 17.

Winkler, W., Volkszählungen. Handwörterbuch d. Staatswiss. Bd. 8. 4. Aufl. S. 857.

Hiess, F., Methodik der Volkszählungen, 1931. S. 1.

行政統計 (ausgelöste Verwaltungsstatistik) とに分類し、後者を更に一部分離脱せる行政統計と完全に離脱せる行政統計とに再分してゐる。離脱せざる行政統計と言ふのは、行政行為の結果、之に隨伴して自然に生ずる行政統計であつて、例へば徴稅事務は、其の結果として、自然に租稅統計を生じ、また出生、死亡等に關する戶籍事務は、其の結果として、自然に人口動態統計を生ずる。この場合、行政統計機能は、獨自の統計法規に基いて活動するものではない。然るに離脱せる行政統計に在つては、行政統計機能其者は獨立の行政行為である。この内で一部分離脱せる行政統計は、一般的行政行為に基く數字材料に關して、其の統計機能の方法的及び技術的性質についての獨自の立場を認められたるものであつて、戶籍帳簿に基く人口調査の如き其の一例である。之に對して完全に離脱せる行政統計は、其の統計機能について、本來の行政行為から完全に分離し、全く獨立の統計行為をなし得るものである。従つてこゝに於て、行政統計に關する獨自の法規が制定せられる事となる。この場合、行政統計機能は、被調査者に對して、強制的に、權力をもつて作用する。この例を近代的國勢調査に於て見る事が出来る。行政統計は、離脱せざるものから一部分離脱せるものへ、更に一部分離脱せるものから完全に離脱せるものへと發展するものであるが、人口靜態調査が、一部分離脱せる行政統計から、容易に、完全に離脱せる行政統計へ推移し得ないで、缺點多き統計結果を以つて甘じ來つた理由は種々あるであらうが、就中、國勢調査に關する科學的方法の確立してゐなかつた事と、一般申告義務者の國勢調査に關する理解の缺如

- 11) Mombert, P., Bevölkerungslehre, 1929. 第一篇 第三章 (S. 27—S. 48) はこの點を論じ、且つ諸學者の意見を引用してゐる。
- 12) 例へば John, V., Geschichte der Statistik. Teil I. 1884. 参照。
- 13) Mayr, G., a. a. O., S. 205.
- 14) Winkler, W., a. a. O., S. 857.
- 15) この點に關しては、竹内秀次郎氏市町村現住人口の價值について (統計集誌

してゐた事を擧げなければならぬ。我國に於ても國勢調査の必要は既に明治三十年ごろより識者の間で高調されたのであつたが、そして政府も亦其の必要を十分に認めたのであつたが、調査方法が確立し且つ萬般の準備が完成するに非ざれば、この國家的大事業も失敗に歸する事を、政府は最も恐れたのであつた。若し國勢調査の結果が不正確なものとなるならば、戸籍帳簿に基づく人口調査の結果と何等選ぶ所がないであらう。

調査方法が完備してゐなかつた爲めに、國勢調査が失敗に歸した例を、先づ英國の國勢調査に於て見る事が出来る。即ち一八〇一年の第一回國勢調査に於ては、職業に關する正確なる概念的決定を缺いてゐたのみならず、申告義務者は各個人なりや或は世帯主なりやも明白にして置かなかつた爲めに、調査結果は全く失敗に歸したのであつた。¹⁷⁾ また獨逸關稅同盟に於ても、一八三四年、關稅收入を、關稅同盟に加盟せる諸聯邦に、其の人口數に比例して分配する爲めに、人口調査を實施したが、其の人口は一種の本籍人口であつたが爲めに、本籍を有せざる現在者が除外され、反對に本籍を有する不在者が混入される事となり、其の利用目的に適合せざる結果しか得られなかつたのである。¹⁸⁾

以上、私は、一國の靜態人口を正確に測定する手段として、古く行はれた種々なる便宜的調査方法の全く信頼するに足らぬこと並に國勢調査の結果も、其の確實性に於て、また其の信頼性に於て、科學的存在の價值を有つ爲めには、先づ國勢調査の性質、調査方法及び其の技術に關して

大正六年三、四、五月號)に於て詳述されてゐる。

- 16) Mischler, E., Allgemeine Grundlagen der Verwaltungsstatistik, 1892. S. 5 ff.
17) Edgworth, F., Census; Palgrave's Dictionary. Vol. 1. p. 238.
18) Wappäus, J. E., Einleitung in das Studium der Statistik, 1881, S. 140.

十分なる概念的定義の確立を必要とすることを述べた。しかし國勢調査に於ける方法並に技術に關する各個の問題の攻究は他日に譲り、本稿では、主として國勢調査の性質について考察し度いと思ふ。これ國勢調査論の出發點であると信ずるからである。

三

國勢調査が一種の統計調査である事は特に説明を要しないであらう。國勢調査は、其の結果として、人口靜態に關する統計の獲得を期待してゐる。(註一)この統計は、蜷川氏の用語に従へば、人口靜態「大量の構成を示す統計系列」であつて、且つ「解析的統計系列」の構成の爲めの素材をなす事を目的としてゐる。統計的研究は、「解析的統計系列」の構成又は之に基く研究であると言ふ事が出来るが、其の素材は「大量の構成を示す統計系列」であるから、この「大量の構成を示す統計系列」が確實性と信頼性とを缺いてゐるならば、これを基礎としてのみ可能である統計的研究も失敗に終らざるを得ないであらう。「大量の構成を示す統計系列」を不用意に利用した爲めに、極めて複雑なる統計方法の援用に基く統計的研究も、結局、數字的遊戲以上に出てゐない實例を吾々は屢々見てゐる。統計調査の結果を、統計的研究の素材として見る時即ち「大量の構成を示す統計系列」を「解析的統計系列」と一聯の關係に於て見る時、こゝに初めて、統計調査の特に重大なる使命を感じるのである。統計調査の結果に對して確實性と信頼性とを期待するのもこの理由に基いてゐる。從來、統計的研究の結論をして敢て豫期する處の事實に合致せしめんが爲めに、

19) 蜷川虎三氏、統計利用の意義と問題、經濟論叢第三十三卷第二號一〇八頁。

統計調査に於ける調査事項の概念を決定するに當つて、故意に不當の定義を下したものと疑はれるが如き事例も少なくはないであらう。例へば獨逸の失業調査に在つて、煽動的効果を伴はしむる爲めに、労働組合が、殆んど一致せる時點に、同一地域に於て遂げたる失業調査の結果が、都市調査の結果に比較して、著しき大差を示したが如き之である。²⁰⁾ (尤も労働組合の側から言へば都市調査の結果が不當であると言ふであらう。) 尙ほ統計の不正確は、かゝる故意に基くものゝ外に、觀察の不備に基づく場合も少なくないが、何れにしても不正なる統計の利用は、世人をして「統計により何事にも立證し得べし」と言ふ非難や「社會に三つの嘘偽があつて、必要の嘘偽、狡猾なる嘘偽及び統計」と言ふ諧謔を發せしむる結果となる。勿論、Nick は、この問題に對して、應酬してゐるが、統計調査に於て、先づ第一に、調査結果の確實性と信頼性を確保する事は、最大の要件である。統計的研究が、科學的目的にあらうと、また國家の方策樹立の基準を目的とするものであらうとも、それをして十分なる價值あらしむるは、統計調査の精確を出發點とする。²³⁾ 國勢調査に對しても之と同一の事が言ひ得られる。

(註一) 國勢調査の對象は靜態人口のみに限らる可きものであるか否かについては定説が存在してゐる譯のものではない。之を事實について見た、近來各國の國勢調査に於て、住居、住居地をも併つて調査する場合も多く、更に廣く、農業調査又は産業調査も Agricultural Census 又は Production Census と呼ぶ例もあるが、²⁴⁾ 國勢調査の實際に照して見る場合、靜態人口が其の中心をなしてゐる事は否定出来ないと思ふ。従つて暫らく國勢調査を以つて人口靜態に關する統計調査であると見て置く。尙ほ人口靜態について如何なる事項を調査するものであるか、其の範圍も亦一定してゐる譯ではない。勿論、國際統計

20) 財部博士、失業者統計概論、經濟論叢第二十卷第五號九頁。

21) 財部博士、統計の誤謬に就きて、經濟論叢第二十五卷第四號四三五一四七四頁に於て、統計に於ける種々なる誤謬について評論されてゐる。Winkler, W., Lügt die Statistik, Allg. Stat. Archiv. 19. Bd. 3. Heft. 1929. S. 327 ff. に於ても統計に於て見られる誤用について論述してゐる。

22) Zizek, F., Fünf Hauptprobleme der statistischen Methodenlehre, 1922 中第五

協會に於て、國際的比較の目的上、一定の調査事項を規定し、多くの國に於ては、之を中心にして、調査事項を決定してゐるが、必らずしも常に之に合致してゐるのではなく、各國の事情に應じ、又同一國內に於ても社會狀態の變遷に應じて、時間的に任意に調査事項を決定してゐる。²³⁾これは承認して差支へない事であらう。しかし勿論、これには限界がなければならぬのであつて、この問題については他の機會に考察し度いと思ふ。

國勢調査によつて得られる統計は、靜態人口に關する大量觀察の結果に基く數字の集團であつて、これを統計系列として表章する場合、各個別の觀察單位から成る數列と、各個別の觀察單位を、一定の方法で統合し、この統合體から成る數列とがある。前者は體性別による統計系列の如きものであり、後者は職業分類別による統計系列の如きものである。職業の觀察單位は、今日の國勢調査に於ては、數萬種類に達してゐるが、之を各個別の觀察單位に従つて數列を作る事は困難である許りではなく、實用的でもないから、例へば各種の商業的職業を統合し、商業と言ふ抽象的上位類型として部分大量を構成するのである。若し之を百分比で示すならば、比率の統計系列が得られる。これ等は同一時、同一場所、同一事象の統計系列である。國勢調査に於ては、觀察時點は一定してゐるのであるから、異なる時に於ける大量の統計系列即ち時系列の存在は考へ得られないのである。國勢調査に於ける時系列は、少なくとも時を異にする二回以上の國勢調査の結果に待たなければならないのであるが、其の統計系列に於ける大量は、同一種類のものであるが、しかし異なる時に於ける個別の大量でなければならぬ。また場所を異にする大量の統計系列は、一地域を小區域に分割する事によつて、一回の國勢調査

論文“Mit der Statistik kann man alles beweisen!” 參照。

23) Conrad, J., Statistik 3d. 1. 5. Aufl. 1923. S. 40.

24) Thompson, W., Agricultural Census (Journal of the Royal Statistical Society, March, 1907, p. 185 ff. Nerschmann, O., Die englische Produktions-erhebung vom 1907. Allg. Stat. Archiv. 1914, S. 53 ff.

25) Schnapper-Arndt, G., Sozialstatistik, 1912, S. 69.

に於て、之を得る事が出来るが、各小區域に於ける大量は、同一種類のものではあるに拘らず、全く別個のものなのである。大量の存在する時及び場所の異なる事に關係なき統計系列と、同一種類の大量ではあるが、異なる時、異なる場所に於けるものゝ統計系列とは、其の性質上、根本的に區別がなければならぬ。²⁶⁾

國勢調査の任務は、それが統計調査である限り、時系列並に場所系列の問題とは獨立に、只だ調査の四要素 *Wer, Was, Wie, Wann* の規定に従つて、靜態人口の個別單位を精確に把へる事を以つて足るのである。乍併、「大量の構成を示す統計系列」は時系列又は場所系列と全く無關係であると言ふのではなくして、寧ろ極めて密接なる關係に立つてゐる。これは統計的研究に對して素材を提供するものであり、それを目的として初めて存在の價值あるものであるからである。

四

統計調査は何れも大量觀察の對象を社會大量に求めてゐるが、國勢調査に於ても、大量觀察の對象は社會大量の一種である處の人口靜態大量である。即ち國勢調査は、一定時點、一定場所に於ける人口大量を、其の標識 (*Merkmale*) に従つて大量觀察するものである。社會大量は、同一種類に屬してゐるが、全く別個の觀察單位の集團から成り立つてゐて、そして各個の觀察單位はそれぞれ現實的存在である。例へば國勢調査に於て、人口の調査標識を其の體性(體性は、體性として把へ得るものではなく、人口の標識としてのみ意味を有ち、自然物としての體性を考へ得られないのである。²⁹⁾)に求めるならば、一定時點、一定場所に於ける人口大量が體性別に調査され、そして各個の觀察單位はそれぞれ

26) Mayr, G., *Die Gesetzmässigkeit im Gesellschaftsleben*. 1877. S. 51.

27) Baines, J., *On Census-Taking and its Limitations*; *Journal of the Royal Statistical Society*. 1900. p. 41. 以下參照。

28) 嶋川虎三氏、統計系列の基礎概念、經濟論叢、第三十二卷第六號四三頁以下に於て、この區別を詳論されてゐる。Zizek は *Die statistischen Mittelwerte* に於て、この區別を明確にしてゐないが、系列の分類を中數値の問題に關聯さ

團である。この事は、統計調査の一種である處の國勢調査にも、そのまゝ當嵌る。

統計調査は、何故に、大量の社會現象を調査するのであるか？この問題は、統計調査その者とは獨立の關係に立つてゐて、全く別個の觀點から答へらる可きものである。即ち統計調査の任務は、與へられたる社會大量現象を精確に觀察し、其の結果を統計として示す事に盡きてゐるのであるから、この問題は、かゝる大量を利用する目的、換言すれば統計的研究の立場から論ぜらる可きものである。要するにかゝる大量は、統計的研究上何故に必要とせられるかの問題を解決するに在る。統計的研究に於ける大量は、統計調査に於ける大量とは、全く別個の意味を有つてゐる事を知らなければならぬ。³⁰⁾統計的研究は、社會現象の一個體に據る事を排し、社會現象の集團或は社會大量現象に基いてのみなされる。統計的研究は、統計調査の結果が提供する處の統計を素材としてのみ可能的に行はれる。これ統計的研究の要求であり、また自餘の研究方法に對する統計的研究の特色である。

然らば統計的研究は、何故に其の研究の對象として社會現象の大量を必要とするのであるか？社會は多數の人類の集團である。この社會に於ける多數の人類の行爲並に其の結果を社會現象と稱してゐる。そして統計的研究は、實にこの社會現象の本質、換言すれば社會現象の方向と強さとを鮮明にする事を目的としてゐる。社會に於ける多數の人類の行爲並に其の結果は決して一律ではなく千差萬別である。人類は、各人に許されたる範圍内に於て、自由に行動する事が出来るからである。個々の人間は、社會の一構成分子に過ぎないのであつて、決して典型的なる社會人

30) 蜷川虎三氏、大量に就いて、經濟論叢、第三十一卷第六號八〇頁以下及び測るべき大量、經濟論叢、第三十二卷第三號一四〇頁以下に於て、大量に二種の意味ある事を詳論されてゐる。

を正しく表示してゐるものでない。従つて一個人の行爲又は其の結果を、如何に詳細に觀察しても、社會現象の本質又は典型的社會現象を理解し得ないのである。例へば一個人の婚姻年齢を觀察しても、之が社會に於ける全人類の典型的婚姻年齢であると信する者は誰もないであらう。事實、婚姻年齢は各人に於て大いに相違してゐるのである。こゝに於て、社會現象の本質を把握するには、確率論の援用によつて、其の社會に於ける大量の社會現象を觀察する必要がある。³¹⁾ 確率論は、觀察數の増大すればするほど、有り得べき値に益々接近する事を教へてゐる。例へば一社會に於ける大量の婚姻年齢を觀察し、之に基いて抽象的婚姻年齢(又は平均婚姻年齢)を求めると言へば、それは其の社會に於て最も有り得べき婚姻年齢又は典型的婚姻年齢を表示してゐるものと言はなければならない。

尙ほ社會現象は、場所的に大いなる相違があり、また時間的に大いに發展するものである。人類の生活してゐる風土並に人類の血管を流れてゐる人種の血液は、人間を個人としてではなく、社會の構成分子として觀察する場合、社會現象に對して、場所的に、大なる特質を附與してゐる。³²⁾ 例へば我國と外國又は我國内に於ても、都市と田舎とは婚姻年齢の傾向を大いに異にしてゐる。次に同一場所に於ても社會現象は大いに發展を續けてゐる。自然界には歴史はなく、今日も尙ほ數千年の昔と同一の状態を持續(若し之にも歴史的發展が有るとしたならば、之は人類の力に負うてゐる)してゐるに反して、人類社會は不斷の發展を遂げつゝある。古代の社會と今日の社會とは凡ゆる點に於て生活の様式を異にしてゐる。³³⁾ こゝに於て統計的研究は、其の研究對象として、場所的並に時間的

31) Mayr, G., a. a. O., S. 16.

32) Mayr, G., a. a. O., S. 4.

33) Mayr, G., a. a. O., S. 3. Engel, E., Die Volkszählungen, ihre Stellung zur Wissenschaft und ihre Aufgabe in der Geschichte, Zeitschr. d. kgl. preuss. stat. Bur. 1862, S. 25 ff. に於てこの問題を詳論されてゐる。

社會大量の存在を要求してゐる。従つてこの要求に應ずる爲めに、統計調査は社會大量の場所的並に時間的觀察を問題としなければならない事になる。國勢調査も、其の實査に當つて、調査區劃を設けて、場所的觀察を行ひ、また回歸的に、時間的觀察を行つてゐるのである。

統計的研究が、其の研究對象として、場所的並に時間的社會大量現象を要求するのは、右に述べたが如き理由に基くものであり、また統計的研究に於ける大量の意味も、確率論の基礎に立つてのみ了解されるものである。尤も統計調査に於ける大量と統計的研究に於ける大量とは、概念上、斯くの如く區別する必要がある、また統計調査に於ける大量は、直ちに統計的研究の研究對象として、大量たる價值を有するものとは限らないのであるが、統計調査は統計的研究を豫想して實施せられるものであり（國家の最終の目的は、政策樹立の基準として、統計的研究の結果を利用せんとするにあらうが）、

また統計的研究は統計調査の結果を利用せんとするものであるから、兩者は極めて密接なる關係に立つてゐる。従つて統計調査に於ける觀察單位並に觀察單位の有つ標識は、統計調査の技術上可能なる範圍内に於て、統計的研究の目的が要求する處に應じて、確定する場合が少なくない。

國勢調査も統計調査の一種類である限り、其の任務とする處は、人口統計研究の目的と接觸を保ちつゝ、靜態人口の精確なる大量觀察により、人口靜態統計を作るにある。これには、調査の四要素の規定に従ひ、人口及び人口に於ける諸標識の概念的定義、調査様式並に調査時期を適當に決定しなければならない。これ等は國勢調査に於ける方法及び技術全般に亙る大問題であつて、別の機會に考察する事とする。